

特定健康診査の健診項目について(腹囲・その他)

検査項目	検査内容	検査						事後措置(治療・介入)			
		(4)		(5)				(6)		(7)	
		目的(※1)	対象集団	簡便性・安全性	精度/有効性	カットオフ	実施体制	対象者	方法	保健医療体制	
基本的な項目	身長	(BMIの計測)	40歳から74歳の男女	非侵襲的検査であり、重篤な副作用等は報告されていない	精度/有効性とも確立している	(-)	これまでも特定健康診査として実施している	(-)	(-)	(-)	
	体重	(BMIの計測)	40歳から74歳の男女	非侵襲的検査であり、重篤な副作用等は報告されていない	精度/有効性とも確立している	(-)	これまでも特定健康診査として実施している	(-)	(-)	(-)	
	BMI	虚血性心疾患・脳血管疾患の危険因子としてのBMIの評価	40歳から74歳の男女	非侵襲的検査であり、重篤な副作用等は報告されていない	精度/有効性とも確立している	肥満症診断基準2011によって示されている	これまでも特定健康診査として実施している	国際的な動向として、腹囲・BMIが第一基準ではなく判定基準の一つとして扱われている。腹囲・BMIを第一基準とすることで、特定保健指導の対象となる女性が少なく、女性が保健指導を受ける機会が限定されている。	特定保健指導及び受診勧奨	これまでも特定保健指導として実施している	
	腹囲	虚血性心疾患・脳血管疾患の危険因子としての腹囲の評価	40歳から74歳の男女	非侵襲的検査であり、重篤な副作用等は報告されていない	測定精度に懸念があることが課題。内臓脂肪蓄積を簡易に測る指標としての有用性はある。	メタボリックシンドロームの診断基準等によって示されているが国際的な基準と一致していない。	これまでも特定健康診査として実施している	国際的な動向として、腹囲・BMIが第一基準ではなく判定基準の一つとして扱われている。腹囲・BMIを第一基準とすることで、特定保健指導の対象となる女性が少なく、女性が保健指導を受ける機会が限定されている。	特定保健指導及び受診勧奨	これまでも特定保健指導として実施している	
	理学的検査	身体診察	(全般的な健康状態の評価)	40歳から74歳の男女	非侵襲的検査であり、重篤な副作用等は報告されていない	(-)	(-)	これまでも特定健康診査として実施している	医師が必要と判断する者	医師が必要と判断する者	受診勧奨者に対する医療は実施可能である
		血压	虚血性心疾患・脳血管疾患の危険因子としての血压の評価	40歳から74歳の男女	非侵襲的検査であり、重篤な副作用等は報告されていない	精度/有効性とも確立している	高血圧ガイドライン2014によって示されている	これまでも特定健康診査として実施している	特定保健指導対象者及び受診勧奨判定値以上の者	特定保健指導及び受診勧奨	これまでも特定保健指導として実施している

※1 特定健康診査で実施される健診項目の検査の目的には、①特定健康診査の最終エンドポイントである虚血性心疾患、脳血管疾患等の危険因子(糖尿病、高血圧症、脂質異常症)の評価  
②生活習慣病の重症化の進展の早期の評価 がある